

双葉町名誉町民



(故) 小野田 忠氏

明治27年9月16日に双葉町新山に生まれました。昭和18年、双葉町に現オノダ精機株式会社を設立。本町の産業振興と安定した雇用対策に努力され、本町町勢振興に貢献されました。

国及び県に対する貢献も大きくその功績は高く評価され、紺綬褒章、藍綬褒章、勲三等旭日中綬章、勲二等瑞宝章を受章、また県外在住者知事表彰、都知事表彰、国の発明賞受賞など、数々の栄誉を受けました。



(故) 天野 光晴氏

明治40年3月26日に双葉町山田に生まれました。大正14年、双葉町を離られて以来、常に愛郷の念にもえ、本町の発展と地域の幸せを願い、特に双葉海岸離岸堤の建設、前田川大型砂防ダムの誘致建設、さらには地域交通体系の促進確立など、本町町勢振興と地域開発のため大きく貢献されました。

また、国政にあっても建設大臣、予算委員長、建設常任委員長、土地問題特別委員長、水資源開発特別委員長、国務大臣国土庁長官、その他多くの職を歴任されるとともに、衆議院掲額議員であり、多年の功績により勲一等旭日大綬章を受章されました。

双葉町民の歌

— 未来みつめて —

作詞 武内敏子
作曲 山岡賢舟

一
梅^{せん}檀芽をふく 双葉の空に
四季をいろどる 阿武隈の山
椎^し葉の野辺は 風さわやかに
清き流れに 大地はひらく
ああ 緑あふれる 双葉町

二

さくら花咲く 双葉の里に
古きをしのぶ 清^{きよ}戸の^と迫^{せき}は
高い文化の 薫^{かお}りを残し
誇^{ほこ}りに 心を結ぶ
ああ 伝統ふかき 双葉町

三

大洋波うつ 双葉の浜に
若さみなぎる 集いの^{あかり}灯
未来みつめて 力を育て
大きな夢に はばたく^{きざし}雉子よ
ああ ゆく手輝く 双葉町

注釈

・町民憲章の主旨を生かし、飛躍する双葉町を表現した。
・双葉町は古来、椎葉(樺葉)郷とよばれていた。
・清戸(キヨト)、迫(サコ)と表音する。

ふたば音頭

作詞 藤田鶴悠芸
作曲 山岡賢舟

一
桜かすみに 柳が招くよ
招く柳に つい誘われて
嬉し恥かし バラが咲く
双葉よいとこ 見に来てごらん
踊り輪になる輪が花になる
みんな揃って 総おどり総おどり

二

前田大杉 十万山かくすよ
かくれたお山に ゆかたを着せて
一度見せたい 盆おどり
双葉よいとこ 太鼓がひびく
踊り輪になる輪が花になる
みんな揃って 総おどり総おどり

三

歴史^{むかし} 偲^{おも}はず やかたの跡によ
誰れを待つやら すすぎが招く
幼馴染もお年ごろ
双葉よいとこ 帰っておいで
踊り輪になる輪が花になる
みんな揃って 総おどり総おどり

四

西に阿武隈 お化粧すればよ
福が来る来る ダルマが笑う
起きて転んで 又起きて
双葉よいとこ 根性どころ
踊り輪になる輪が花になる
みんな揃って 総おどり総おどり